

がん患者の治療と就労支援における産業保健師の役割

—中小企業の現状と課題—

さきやま のりこ
○崎山 紀子 (東京医療保健大学 千葉看護学部 地域看護領域)

【はじめに】

2016年7月22日の国立がん研究センターの発表によれば、全がんの5年相対生存率は男女計62.1%であり、がん経験者であっても長期生存し、社会復帰する例が増えてきている。本シンポジウムでは、大企業、中小企業、労働衛生機関の産業保健師の経験から、現在の研究について報告し、今後の課題、取り組みについて議論できると幸いである。

【中小企業の現状と課題】我が国において労働者の殆どが働いている中小企業における両立支援の普及・推進が喫緊の課題となっている。しかしながら、中小企業関係者や活用可能な両立支援に関わる専門職間の連携は未だ十分と言えない。中小企業における治療と就労の両立支援の普及・推進を円滑かつ有効に進めるためには、中小企業ならではの両立支援のあり方を明確にするとともに、産業保健師が果たし得る役割を明らかにする必要がある。また中小企業ならではの両立支援の推進に向けた産業保健師を含む多職種連携についての現状を把握する必要がある。

【まとめ】良好事例をもつ中小企業の共通点として、経営者の「社員を大切にす

る」強い信念と理念に基づき、社員が病気に罹患しても安心して働ける環境づくりや社員や家族に対する十分な配慮を行っていたこと、企業内に互いに支え合う社内風土・文化が醸成されていたことなどが挙げられた。今後の課題として、両立支援に関心がない中小企業経営者への効果的な情報提供方法や、専門職等の外部資源活動方法の周知方法を検討していく必要性が示された。企業外労働衛生機関の産業保健師は、事業場との信頼関係に基づき事業場の取組レベルに応じた支援や、労働者に寄り添うきめ細かな支援の工夫を行い、中小企業で働く人々の支援、体制づくりを支援していた。今後の中小企業における更なる両立支援の推進に向けて、中小経営者への産業保健師等の専門職の役割や支援機関の活用方法の周知が必要であることが示された。

【職歴】

東京医療保健大学千葉看護学部 助教
NPO 法人生涯発達研究所理事
筑波大学大学院人間総合科学研究科卒業
保健学修士課程修了。順天堂大学大学院医学部
公衆衛生学講座博士課程在籍。複数の大企業の
産業保健師を経て、年間40万人の健診を請負う
労働衛生機関の産業保健課課長代理に就任。労働衛生機関の特性を活かし、労働衛生機関が産業保健領域において果たす役割に着目し、中小企業の産業保健活動の推進に取組み、現職に至る。主な研究：小児および職域における睡眠呼吸障害スクリーニング推進における調査研究、健康経営および両立支援における産業保健師の役割に関する研究、発達障害支援に関する研究等。(E-mail : n-sakiyama@thcu.ac.jp)